巻頭言

学園長　更科幸一

全ての人が喜び、助け合い、持続可能な社会をつくりだす人を育てる学校として、今年度もピースメイカーを育てる実践をしてきました。試行錯誤は常ですが、本当に難しいと感じた１年でした。

特に、「言葉」についてはいろいろと考えさせられることが多くありました。たとえば「愛する」と言っても、各自が考える形は異なります。自由学園の創立者・羽仁もと子の言葉「思想しつつ　生活しつつ　祈りつつ」についても、学園の構成員が考えているその言葉の意味、その言葉から発する実践は異なります。異なっていたとしても、通底しているものは共通でありたい。それにはその言葉を理解したいと探求し続け、考えを深化させていく必要があると考えています。

また、中等部時代の生活には、初等部時代の生活が関係しているように、各学校段階の生活はその前段階の生活が密接にかかわります。そう考えると、学校だけでなく、家庭も含めて学園に属するすべての人で創立者の思想をもとに語り合いたいという希望をもっています。

今年度１月より、まず各部の教師会で『自由学園一〇〇年史』のそれぞれの部の歴史を読み学ぶことを始めています。「守・破・離」という言葉がありますが「守」の部分、何を大事に守るべきかを知った上でなければ新しいもの・ことを生み出すことはできません。そしてこの「守」の部分こそが自由学園が自由学園であることの基軸です。『自由学園一〇〇年史』第二部各部教育を、毎週１章ずつ読み進め、そこから現代に何が生かせるかを考えています。

その上で、今後は特に１日の８割を占める教科教育のより一層の充実を目指します。生活に即した学びを創り出すのには最高の環境がある学園で、資源を十二分に活かした内容づくりを実現させていきます。